

津波バック転ミラクル堤防

年中日中・真夜中、時を選ばず必ず襲い来るとされる免れ得ない大自然の脅威津波から生命財産を守るには優れた堤防に依るのが最善です。津波時での堤防の優劣は正に運命の岐路、無数の尊い生命と財産は何としてでも助けねばなりません。それには当会の津波で津波を制する津波バック転ミラクル堤防(システム)が最適最良です。



津波バック転ミラクル堤防(システム)の特徴

A) 本(システム)の工法

この(システム)は地下の下部構造部と地上の上部構造部全体が一体となった鉄筋(鉄骨)コンクリートで構成され、津波で津波を制する津波返し付の上部構造防波堤と地中柱杭を地中深く穿孔した穴に差込み、その外周をコンクリートで固めて地中地盤と一体化した下部構造基盤部とのこれら上下両構造部が強弓に結合され、全一体となって巨大津波をも打ち砕き防ぐ(システム)です

B) 本(システム)の利点

- a) 地中地盤と一体化しているので巨大津波にも転倒、倒壊、移動などしない
- b) 付属の津波相打ち津波返し防波壁付属消波板⑥により、津波力が相打ちとなり相殺され津波による被害を最小限に抑えることができる
- c) 万一津波が防波壁②を乗り越えても本(システム)に遮断され水流勢がなく単なる浸水に留まり、生命や建物等への被害を最小限に抑制できる
- d) 上部構造防波堤①の陸地上からの高さを相当低くできる(2m~5m)
- e) 地下水透水層⑰により豊富な栄養素を含んだ陸地山野からの地下水を常時普遍的に安定して海に通水させ海水の自然栄養分を豊かにし、近海漁業を甦らせ海産物を豊富にし、これらに伴い回遊魚を大量増加させる
- f) 上部構造防波堤控え部③④⑤⑭で道路共同溝作業所等多目的に利用出来る
- g) 付属集風力発電システム(間口 3m×3m、奥行 3m) 14 基を設置すれば、ハブ高さ 36.3m、プロペラ直径 30mの中型風力発電設備と同等以上の発電電力を得ることができ、費用は其の 1/15 以下でできる
- h) 河川の曲がり角や曲線部の決壊危険堤防などに優先適用できる

津波で堤防が機能するか否かでは正に天国と地獄です。無数の尊い生命と歴史ある大地や街・村は何としてでも助けねばなりません。近々必ず発生するとされます全ての津波対策には強靱で近海漁業再生など合理的な、津波時以外にも役立つ、本システムが最優最適です。本(システム)に付いての更なる説明等のご指示を切に期待しております。

敬具

平成 28 年 2 月 吉日

〒655.0872 兵庫県神戸市垂水区塩屋町 2 丁目 4 番 56 号

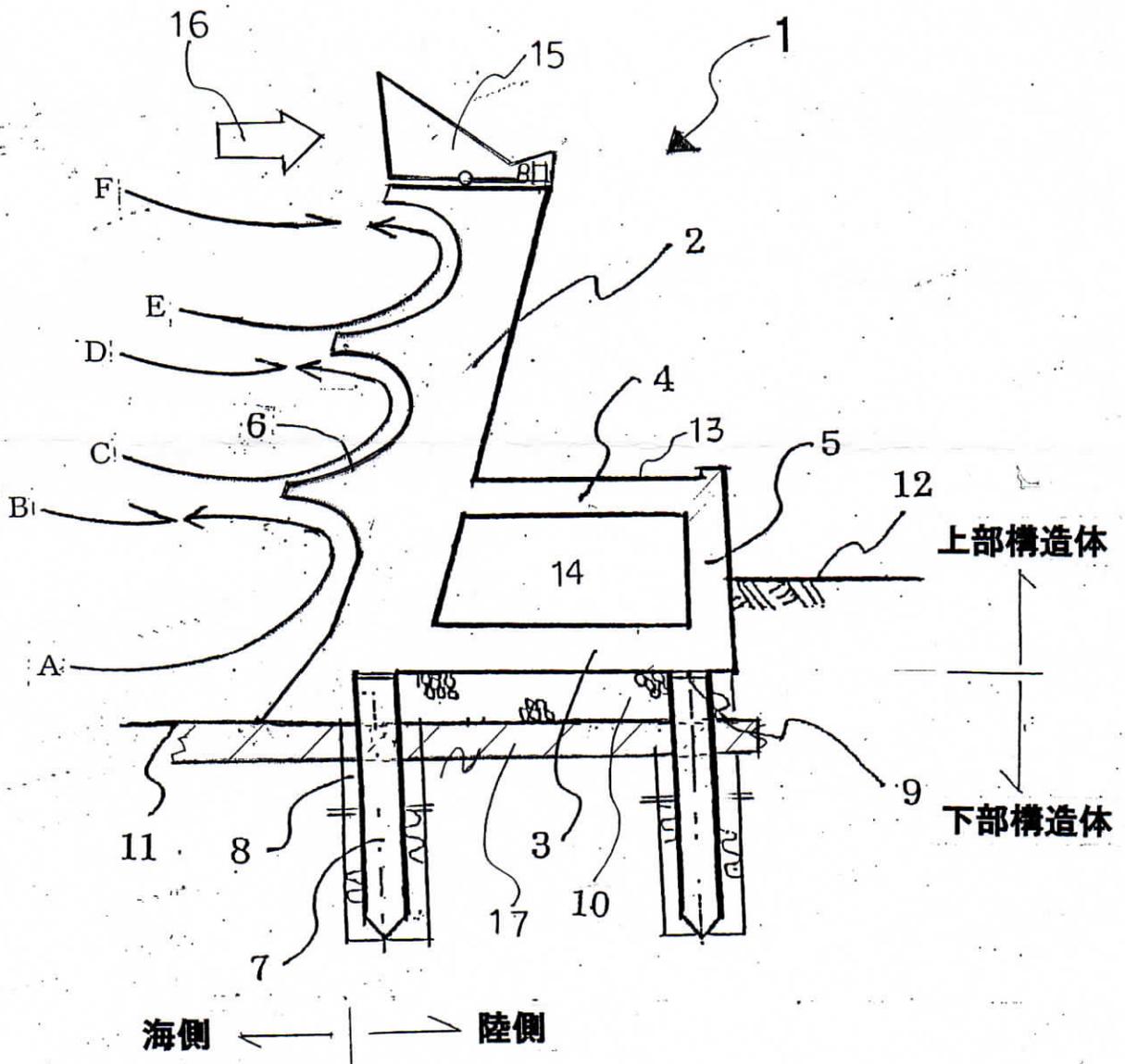
津波バック転ミラクル堤防(システム)会 TEL 078-752-3753

代表 脇 田 正 男 (一級建築士・管理建築士)

津波バック転ミラクル堤防HP : <http://tsunamibacltenmiracleibo.sitemix.jp/>

津波バック転ミラクル堤防 (システム)

断面図



【符号の説明】

- | | | |
|----|---------------------------|----------------|
| 1 | 津波バック転ミラクル堤防 | A=津波 (海潮波) 第1波 |
| 2 | 防波壁 (高さ2m~5m) | B=津波 (海潮波) 第2波 |
| 3 | 防波壁基礎スラブ | C=津波 (海潮波) 第3波 |
| 4 | 防波壁控えスラブ | D=津波 (海潮波) 第4波 |
| 5 | 防波壁控え壁 | E=津波 (海潮波) 第5波 |
| 6 | 防波壁付属消波板 | F=津波 (海潮波) 第6波 |
| 7 | 下部構造体 (固い地盤内にインプラント) | |
| 8 | 下部構造体外周コンクリート詰め | |
| 9 | 上部構造体と下部構造体との剛接合部 | |
| 10 | 基礎マウンド | |
| 11 | 海底地盤 | |
| 12 | 内陸部地盤 | |
| 13 | 車道 | |
| 14 | 共同溝 | |
| 15 | 集風力発電システム
(最適受風方向調整軸付) | |
| 16 | 海風 | |
| 17 | 地中透水路 | |

東日本大震災崩壊防波堤と市街地

